

原著

諸外国の助産師が行う経腹超音波検査の 実施に関する文献レビュー

北海道大学大学院保健科学院

仲谷 紗希

札幌市立大学助産学専攻科

中山 志保

東京大学医学部附属病院

佐藤 瞳 高橋 香帆

北海道大学医学部保健学科

長井 菜摘

医療法人社団カワカミウイメンズクリニック

伊藤 由美

北海道大学大学院保健科学研究所

佐川 正

抄 録

わが国では、院内助産所および助産師外来の設置数は年々増加しており、これに伴い、妊婦健診で助産師が超音波検査を行う機会も増加していくことが予測される。そこで本研究では、文献レビューによって、諸外国の助産師が行う超音波検査の実施の現状を明らかにすることを目的とする。

アメリカ、オーストラリア、北欧を含むヨーロッパ諸国を選び、PubMedのデータベースを用いて英語論文の検索を行い、18編の英語論文を抽出した。

アメリカ、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、イギリス、アイルランド、フランスでは助産師が妊婦健診において超音波検査を実施していることが明らかとなった。アメリカではエンターテイメントとして超音波検査を使用することを認めない勧告がでていることが特徴である。スウェーデンではスクリーニングとしての超音波検査の約96%を、助産師が行っている。また、ノルウェーとアメリカの文献には助産師が超音波検査を実施するための教育制度について明記されていた。ノルウェーでは大学院での超音波検査の教育制度が確立しており、アメリカでは大学のカリキュラムの中に導入され始めていた。

このように助産師による超音波検査の実施、教育などは国により多様性がみられた。

キーワード：超音波検査、助産師、妊婦健診、スクリーニング、助産師教育

I. 緒 言

日本における超音波の医学的応用は1950年頃から本格化し、1970年代になると早期妊娠診断

の方法として一般的に病院や診療所において導入されることとなった¹⁾。現在では、超音波検査を用いた妊婦健康診査はおもに産科医により実施

平成29年9月7日受付、平成29年11月25日受理